

平成29年11月16日(木)
「暮らしのなかの食」実践発表会

つながい学ぶ食農体験学習

伊那市立高遠中学校

1学年



4月26日(水)















6月21日(水)



8月23日(水)



高遠中学校応援隊
西村勇雄さん
ジャガイモの消毒をして
いただきました。



10月18日(水)お弁当の日



井口 こと香

藪大翔





湯澤 架流

9月13日(水)





11月3日(金)1年生の畑



教室での座学が苦手なKさん。花壇作業や畑仕事が好きです。学校から離れた畑の世話は、当番であっても忘れてしまいがちですが、Kさんはおかまいなしに毎日足を運びます。そんな姿に触発され、ダイコンの作業の時には、率先して働く生徒の姿が増えました。

2学年

5月1日(月)



5月31日(水)



6月14日(水)



3学年



6月2日(金)



6月19日(月)

9月9日(土)



10月4日(水)



小豆の収穫
と抜き取り

10月25日(水)





ご贈答
好適品

地域と向き合う美術教育

伊那市高遠町で県研究大会

第70回県美術教育研究大会(県美術教育研究会主催)が11日、伊那市高遠町で開かれ、200人が参加。同市高遠町



県美術教育研究大会で行われた高遠中2年2組の公開授業。参加者が関心を寄せた

内にある保育園、小中学校、高校で公開授業を実施した。このうち高遠中2年2組は高遠城址公園の花見客をもてなす同校の「観桜期活動」に必要な企画を考え、デザイン化する授業を公開。地元と向き合いながら創作する生徒の姿に、参加者は高い関心を寄せた。

同校では昨年度から美術科で、観桜期のもてなしをデザインにして表現する授業を導入。今年度も2学年の2学級が10月から始め、学年や生徒会などへ提案する素材の制作に取り組んでいる。

2年2組の22人は、「看板・マップ」「和風カフェ」「スタンプラリー」など、六つの企画のグループに分かれて制作。公開授業では、もてなしの気持ちを色彩や形などでどう表現すべきか考え、花見客に喜んでもらえる土産品や客がまた来たいと思える地図などを図案化した。

タブレット端末なども駆使しながら、桜をはじめとした地元の風景や名所などをデザインに取り入れる姿も。商品開発グループの伊東陽菜さん(13)は「全世代の皆さんに楽しんでもらえるよう考えている。おもてなしの心で、安心して食べたり、使えるものを提案したい」と話した。

参観した美術教諭らは、生徒たちの熱心な取り組みに感心しきり。同研究会副会長で岡谷市湊小の酒井重明校長も「地元をより良くしよう」と、自分のイメージを形にしている姿に感動した。伊那市高遠町は保育園から高校まで、自分や地元と向き合う美術教育が一貫して実現できている」と目を細めた。(勝村誠之)

高遠町上山田金井地区のナガイモの収穫が最盛だ。大市場には出回らでしか入手できない。幻が、ファンが多く、生産年も良い味に仕上がって業に熱が入っている。

市高遠町金井

区は火山灰土の赤土で良。古くから根菜類の生産、ナガイモも金井根菜部(部会長)の20人が中心と(1)1・5秒で育てている。巨さん(75)は7ヶ月ほどの000本を栽培し、苦勞

してイモを土中から掘り出す。今年は夏の高温少雨と秋の長雨により、サイズは大きめ。1ヶ月前後が売れ筋だが「1・5〜2ポのものもあり育ち過ぎた」という。それでも粘りと甘み、濃さなど

特長である味の良さは不変だ。「朝晩このイモを食べるが、1杯余計にご飯をおかわりしてしまう。新米とこれさえあればいい」と丸山さん。「食べると掘るエネルギーがまた湧いてくる」と笑った。

収穫は12月初旬まで続き、地元直売所が出荷の中心。19、20日に高遠町内のJA上伊那東部支所で開催される農業祭では、生産者自ら軽トラ市で直売する。(勝村誠之)

「観桜期活動をデザインしよう」→「石工饅頭」の誕生







高遠中学校

オリジナルまんじゅう

信州高遠

おもひ

石工の想



ずく

テレビ

で紹介されました!



通常の焼き印

中学生が考案した焼き印



長野県内の全町村まわります!
伊那市高遠町 花よりまんじゅう

江戸時代、信州高遠は石工の里として全国的に知られていました。石工（いしく）とは石材加工を行う職人のことで、石切（いしきり）とも呼ばれました。
高遠藩領内出身の石工は「高遠石工」と呼ばれ、優れた腕を持っていました。彼らは全国各地に出向き、出張先で石仏や石塔、石橋、鳥居、石垣など様々な石造物を造りました。
（伊那市公式ホームページより）

ここでしか買えません!

8個入り 1000円

バラ売りもあります。



建福寺 石仏



自分のアイデアが、オリジナル焼き印を押した「石工饅頭」となり、観桜期活動で販売して売り上げを伸ばすことができたTさん。

テレビでも取り上げられ、多くの人に喜んでいただき、自信につながりました。

今行われている生徒会選挙の教室訪問では、「ぼくたちは卒業しますが、1，2年生に石工饅頭の販売をぜひ続けていってほしい」と訴えていました。

やますそ1組





「草取りって、一番嫌な作業だけど、一番大事な仕事だと思うからがんばってやった。」

「たいへんで面倒くさいけど、そういう苦労があって食物が作られ、食べることができるんだなあ、ということを知った。」

「かわいい」「やったぜ!」。出てきた芽に感激、成長も喜びに。

昨年の経験を生かし、今年は面倒なことも根気強く取り組む一歩成長した姿が見られました。生徒が自分で感じた経験の積み重ねの大きさを感じました。

成果と課題

- 学年ごとの畑がはっきりして種まきから収穫までの一連の活動が軌道に乗った。
- 作物の栽培から、人とのつながりや学びのつながりが生まれた。
- 農業体験から地域とのつながりの中で、美術や総合的な学習など教科横断的な学習などに発展している。
- KさんやTさんのように、自己肯定感を高め、生き方を高める生徒が確実に存在する。
- 教育目標の一つ、「花作相見」との関連をどう図るか。
- 総合的な学習の時間に取り組んでいるが、生徒の生活に結びついた毎日の活動にはなっていない。
- 新しい教育課程を編成する中で、学校の特色に関わって教科横断的に「暮らしのなかの食」を位置づけていきたい。

平成29年度 伊那市食育川柳 入選

食べること
人と人とを
つなぐこと

高遠中学校 2年2組 樋口晴斗